

釜石発 「足りない活字のためのことば」展

被災した活字を利用



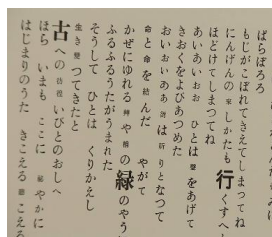
津波で被災した釜石市浜町の藤澤印刷所内に保管されていた鉛合金製の活版用活字を使って詩人の谷川俊太郎さんなど12人の作家が

詩や俳句を綴った「足りない活字のためのことば」展が開かれています。藤澤印刷所は津波で2階まで



浸水し、建物を解体しました。保管されていた活版用活字も廃棄する予定でしたが、現地に入ったボランティアの人たちが、活字を使った作品制作を作家たちに呼びかけ展示会が実現しました。展示されている作

品は、残された活字の数が文字によって異なり、使える言葉が制限されるため、独特の表現が生まれ、復興への思いなどがつづられています。この展示会は6月1日まで釜石市只越町の「みんなの家・かだつて」で開かれています。(5/7 ニュースエコー)



陸前高田発

海岸復旧工事開始

震災で被災した陸前高田市・広田地区の海岸復旧工事が始まりました。工事が始まったのは広田海水浴場周辺の、幅およそ700mほどの海岸です。この地区は、震災の影響でおよそ1メートル地盤沈下し、砂浜が大きく失われました。砂浜の保全を図るため、22メートル山側にずらした位置に高さ10.4メートルの防潮堤を建設する計画です。事業費は約16億円が見込まれ、2015年度中に完成する予定です。(5/8 ニュースエコー)



釜石発

「なんでも相談会」



被災地での住宅再建などについて相談を受けつける行政書士による相談会が釜石市などで開かれました。この「なんでも相談会」は被災地

での住宅再建や土地の相続手続きの支援をしようと岩手県行政書士会が毎月第2土曜日に無料で開いているものです。釜石会場のシープラザ釜石では、相談者からの住宅再建に対する国や県から支援金のことや、土地の名義変更方法などの相談に行政書士が丁寧に答えていました。(5/10 ニュース)

陸前高田発

「箱根山テラス」建設進む

陸前高田市小友町の箱根山中腹に、「復興支援の一助」と新たな宿泊施設が建設されています。この宿泊施設『箱根山テラス』は、復興まち



づくりを担う起業家の育成を図る「なつかしい未来創造株式会社」が、アイデアを練る拠点になればと建設を進めているもので、気仙スギなど県産材を使った木造2階建ての宿泊棟と研修棟で構成されます。施設には320平方メートルのテラスも備え付けられ、広田湾を一望することができます。箱根山テラスは、9月11日に開業する予定です。(5/13 ニュース)

宮古発

さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)

今週はみやこハーバーラジオの木村彩子さんが、震災後初めて宮古港に入港した豪華客船「ぱしふいっく・びいなす」について伝えくれました。市内の小学校ブラスバンドクラブの演奏や、漁協婦人部の皆さんが焼く今が食べごろの「花見カキ」や、地元で採った「山菜のてんぷら」のお振る舞いなど、乗船客を宮古ならではのおもてなしで迎えました。木村さんは、「お越しになった皆様に、宮古って良い所だったなあ、と思い出してください、また来ていただきたいです。」と話していました。(5/14)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122